

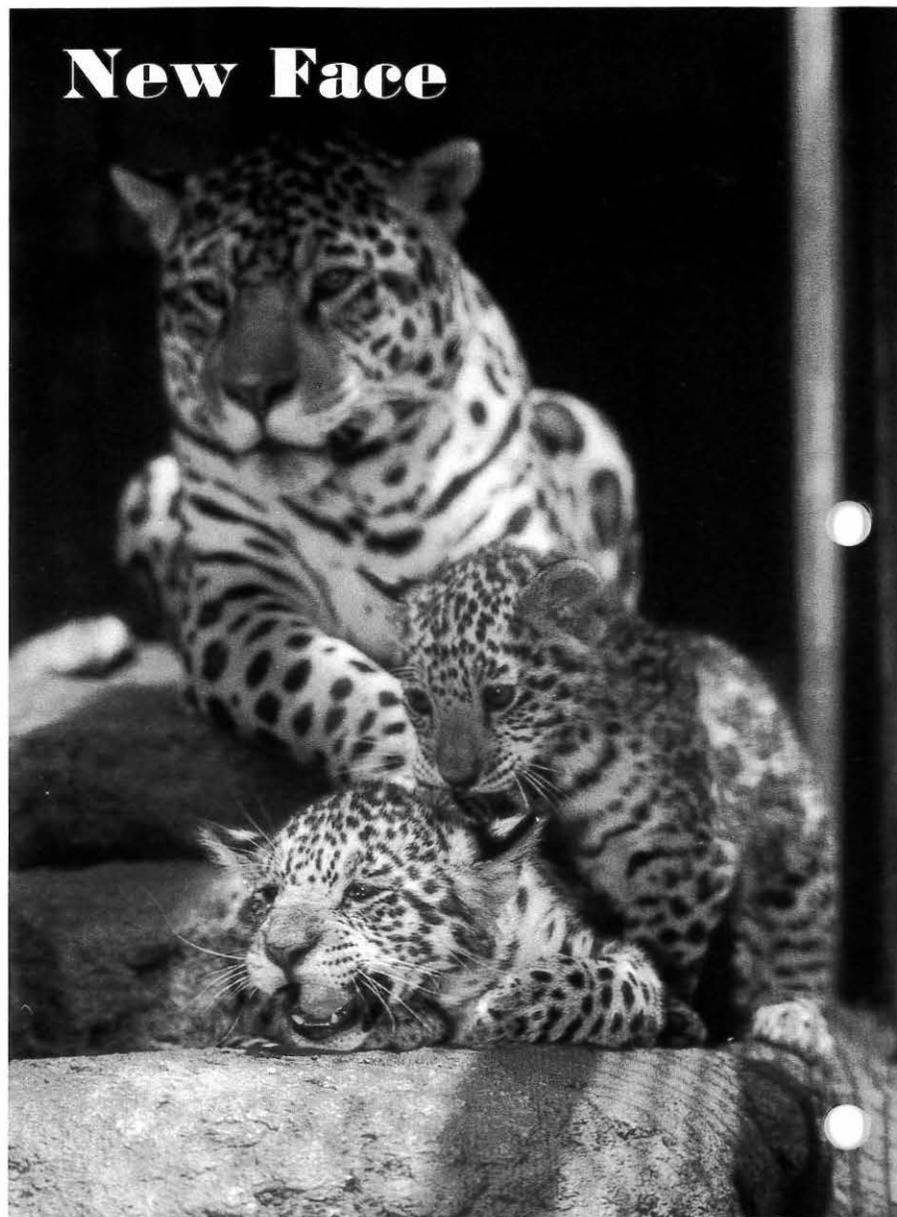


なきごえ



1993

7



(撮影：竹田 正人)

もくじ

- 2 — New Face ジャガーの赤ちゃん誕生
- 3 — 動物と私 猫はどうして家に住むの？(酒井和子)
- 4 — アフリカゾウに思う(大高成元)
- 6 — 飼育下の動物行動調査とその解析Ⅱ (大野尊信, 早川 篤)
- 8 — グラフZOO 今年も赤ちゃんがいっぱい
- 10 — ケンチャンの好きやねん動物園(松葉 健)
- 11 — ZOO DIARY

カバーウォッチング

マーラ
ネズミ目 テンジクネズミ科
Dolichotis patagonum
足が長いので、ちょっとネズミの仲間には見えませんが、南アメリカには変わったネズミの仲間がたくさんいます。パンパス(草原地帯)や岩の多い荒地に住んでいます。
(撮影：森本委利)

||||| 動物と私 |||||

猫はどうして家に住むの？

美猫？薄命とでもいうのでしょうか、黒猫“ライサ”は流行り病におかされて、手当のきいもなく、1年9か月で逝ってしまいました。艶やかな毛、黄金色の目、しなやかな身体、口ほどに物を言うしっぽ、と見た目にも可愛かったので、猫嫌いの連れ合いも彼女にはコロリとまいってしまふほどでした。娘は、時にはジェラシーを感じつつも、歳の離れた妹のように可愛がり、かいがいしく世話を焼いていました。

実際、“ライサ”は手のかかる猫でした、病気はするし、喧嘩っばやくて怪我はするしで、よくよく医者通いをしたからです。猫とて入院は参るとみえて、退院してきた夜は私の膝から離れず、そとなでやると安堵して寝入るのです。膝と云えば、2度目のお産は私の膝でしました。逆子で難産だったようですが、どうしてやることも出来ず、ガンバレと励ますだけ。産後は私の方がぐっと疲れる始末でした。

確かに“ライサ”は、我が家では思いのままに振る舞っていました。お腹がすけば冷蔵庫の前でニャア。出掛ける時はドアに前足をかけてニャア。テレビの動物番組に見入り、コタツから頭だけ出



酒井和子さん
(おはなしかご会員)
(ストーリーテラー)

して寝るなど、人間の暮らしに同化していました。とはいえ、世にいう、自分を人間だと思っているペットではなく、猫の自尊心を失わず、「野生のエルザ」のように、“Born free=生まれながらにして自由”といった存在でした。人間と猫の壁をフリーパスしていたようです。

こうして猫と付き合っていると、その性格や行動が妙に人くさくみえてきて面白いのですが、昔話の中にも様々な猫が出てきて、昔話を語る私としては興味津々です。食欲で、自分勝手に、ふてぶてしくて、気味が悪くて…、決して可愛いばかりの猫ではありません。お馴染み、ペローの「長ぐつをはいたネコ」では、猫の活躍で三男坊が大出世しますが、公爵に取り入る猫の要領のいいこと！リトアニア民話「ネコがごはんのあとで顔を洗うわけ」では、顔を洗っているスキに雀に逃げられるドジな猫が登場。ふてくされる様がおかしくもあります。食いしん坊猫ならデンマークの昔話「ついでにペロリ」。おかゆと鍋をペロリ、お婆さんもへそ曲がりも女の子も牧師さんもペロリ、斧を持った樵も…？調子に乗るとどうなるかは、バブル経済をみなくてもわかりますよね。人間との関わりが長い動物だけ、世界各国に面白い話がいっぱいあります。

ジャガーの赤ちゃん誕生 ネコ目
ネコ科

今年3月3日、ジャガーが生まれました。母親は過去5回の出産経験がありますが、今回初めて自分で子育てをしました。5月7日から一般公開しています。



ところで、「猫が家の中に住むようになったわけ」(スワヒリ民話)をご存じですか？猫は昔ウサギと森にいました。でもウサギがカモシカに殺されるとカモシカについていき、ヒョウ、ライオン、ゾウと次々強いものについていくのです。そしてゾウを殺した獵師が女にぶたれるのを見て、「一番強いのは人間の女なんだ！」—猫はしっかりと“マン・ウォッチング”しているようです。
(さかい かずこ)

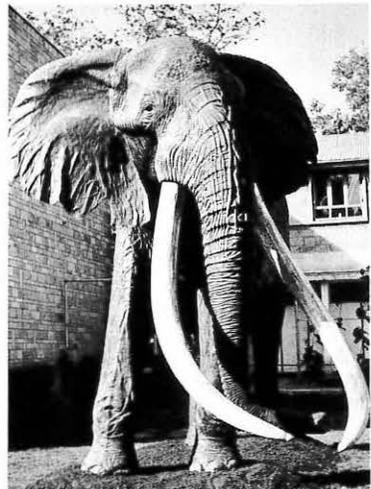
アフリカゾウに思う

大高 成元 (動物写真家)

私が初めて東アフリカを訪れたのは、22年前の1971年7月です。当時、ウガンダ、ケニア、タンザニアの東アフリカ3か国はイギリスの植民地から独立して各国とも希望に燃えた国造りを始めた時代でした。野生動物の写真撮影の目的で東アフリカ3か国の主なる国立公園を約2か月の日程で見て回りました。

初めて訪れた国立公園は動物を保護する規則だけでなく環境全体を守るべく規則が厳しく決められていました。各国立公園の入口には、小さな博物館が作られ、公園の概要が理解できる適切な展示がなされていました。宿泊施設も周囲との調和を十分に配慮した建物です。勿論、広告類などの立て看板は一枚もありません。野生動物を見に来る観光客が3か国とも重要な外貨獲得の産業であり、動物を見るための施設・システムは完備していました。

このような国立公園は、現在でも日本には存在していません。日本の国立公園で野生動物を見る、写真に撮ることは大変にむずかしいのが現状です。単に景観を楽しむだけの国立公園ですが、旅館ホテルなど宿泊施設は周囲の調和など一切考えずに勝手に建てられ、スキー場・ケーブルなどの観光施設が乱雑に作られ、著しく景観を壊しています。私は発展途上国と言われている東アフリカ3か国の国立公園が日本より数段優れ



70年代世界最大の牙を持つといわれた「アーメッド」死後実物の像がナイロビ博物館に作られています。(1977年ケニア)

ているのに驚ろかさされ、これが本当の国立公園の姿であると思い知らされました。

初めて目にした野生のアフリカゾウ、キリン、カバ、クロサイ、ライオン、チーター、ヒョウなどのビッグ・スターたち。大小各種のレイヨウ類、数々の鳥類。東アフリカは野生動物の宝庫だと強く私の脳裏に焼きついてしまいました。東アフリカに「アフリカの水を飲んだ者は、再びアフリカに戻る」と言う諺があります。諺通りに東アフリカの魅力に取りつかれた私は1977年まで5回訪れ、夢中に写真を撮り続けました。

当時の東アフリカ3か国のどこの国立公園でも、アフリカゾウの姿は簡単に見られ、大きな群れが移動して行く光景は雄大で、大地が動いているように見え、しばしば感激しシャッターを押し続けたことが今でも鮮明によみがえってきます。そして、数ヶ所の国立公園でアフリカゾウのオーバーポピュレーションの問題が起きつつありました。ケニアの首都ナイロビと港町モンバサを結ぶモンバサ鉄道の間地点にツァボ国立公園があります。この国立公園は東アフリカ最古で最大です。その面積はほぼ四国と同じ広さです。

ツァボ国立公園は赤土で泥浴びが好きなアフリカゾウは体が赤くなり、赤いゾウとして有名でした。私がこの伝統ある国立公園を訪ねた時に、ユニークな形で人気のあるバオバブの木の幹がカジられてボロボロになっていました。これはバオバブの幹には水分が多く、柔らかく、アフリカゾウの好物です。公園内のバオバブの木のほとんどがアフリカゾウの牙でやられてしまったのです。

多過ぎるアフリカゾウによる植生の破壊が進み、国立公園の砂漠化が心配され、間引きの必要性が論じられてきました。幸か不幸か、その後数年にわたり大干ばつに襲われ、アフリカゾウをはじめクロサイなど貴重な動物たちが餓死しました。アフリカゾウだけでも、4000頭が死亡する悲劇に見舞われました。結果、間引きは行なわれずすみましました。



ウガンダ・カバレガ・フォールス国立公園で見られたアフリカ象の大群(1973年8月)

一方、ウガンダのビクトリア湖に源を持つビクトリア・ナイル川のカバレガの滝を中心にした、カバレガ・フォールス国立公園では森林破壊

が懸念され、3000頭以上ものアフリカゾウが射殺されました。

このように多過ぎるアフリカゾウが問題になっている時代でした。このことは国立公園内でアフリカゾウが保護され増えたものではありません。国立公園外で生活していたアフリカゾウが、人間との軋轢によって追われ公園内に逃げ込んだものでした。アフリカゾウは国立公園に行けばかならず見られる、ポピュラーな動物でした。

昨年9月に15年ぶりに東アフリカの国立公園を久しぶりに訪れて愕然とさせられました。あれ程沢山いたアフリカゾウが簡単には見られなくなっているのです。

ケニアで最もアフリカゾウが多いとされているツァボ国立公園を3日間走り回っても1頭も発見できませんでした。タンザニアでアフリカゾウの密度が濃いとされているマニヤラ湖国立公園でも状況は同じで、3日間のサファリを行いました。やはり1頭も見られませんでした。その他の国立公園も同様で見られたとしても4~5頭の小



ケニア・マサイマラ国立公園で見られた、小さな群。現在、この程度の群が多い。(1993年9月)

さな群れで、50頭や100頭以上の大きな群れにはほとんど出会えません。大型動物で増えているのは、キリン、カバだけです。アフリカゾウは東アフリカの国立公園ではもう簡単には見られない希少種になってしまったようです。

どうして、このような状況になってしまったのでしょうか？近年、それほどの大きな干ばつにも襲われてもおりません。

ここに、1990年に発表された African Elephant Action Plan によるアフリカゾウの推定個体数を見て下さい。

〔東アフリカ〕		1981年	1989年
ケ	ニ	65,056頭	16,000頭
タ	ン	203,900頭	61,000頭
ウ	ガ	2,320頭	1,600頭
〔南アフリカ〕			
ア	ン	12,400頭	18,000頭
ジ	ン	49,000頭	52,000頭
ボ	ツ	20,000頭	68,000頭

70年代だけでウガンダが7分の1に減り、ケニア・タンザニアで4分の1にまで減少していました。驚くべきこの数字は何を物語っているのでしょうか？これら全部が密猟によるものとは説明できません。第1に考えなくてはならないのは、人間の増加によるアフリカゾウの生活域の減少一すなわち環境破壊によるものでしょう。第2として、密猟問題を考えないわけにはいきません。

私はこの問題を考えると悩まされるだけで、明快な解決策が浮びません。我々、先進国に住む人間は文化生活と称する極めて便利な生活を享受しています。ひるがえって、アフリカゾウの生息地と隣接して生活している人達は、近年貨幣経済生活に入りつつあります。古来から採集生活からの変化には容易に行けません。手取り早く貨幣を手に入れ近代的な生活を営みたいと願っています。隣りに住むアフリカゾウ、クロサイ、ヒョウなど価値の高い動物に手を出すのが現状です。



ケニア・ツァボ国立公園、密猟者によって牙だけを持ち去られた死体。(1977年2月)

私達が密猟は悪だと簡単に決めつけることは、自己の立場を考えない発言だと思います。ここ数年、陸上最大の動物ゾウと水棲最大の動物クジラと互いに良く似た問題が起っています。クジラは人間との生息域の直接の競合はありません。生息数の減少は狩猟圧によるものです。現在の日本で動物性蛋白をクジラに求める必要性は皆無です。捕鯨を中止すれば個体数は確実に回復するでしょう。一方のアフリカゾウもアジアゾウも、生息域の競合は同じ状況にあります。密猟の主たる目的の象牙、特に日本の印材としての利用は、私の拙文を読まれた方はただちにやめてプラスチック、牛の角を使って下さい。

人間の生活域とゾウの生活域はどうしても競合してしまいます。これはゾウだけの問題ではありません。地球上に生息する総ての生物群の抱えている共通の問題です。

現代に生きる人間として何か明快な解決策が見つけれられないのでしょうか？同じアフリカゾウの住む南アフリカのいくつかの国では増えています。今年はそれらの国を訪れ、いかなる方法で増やしたか、人間との競合をいかに解決したか、この目で確かめ、私の解決策を探りたいと考えています。

(おおか せいげん)

飼育下の動物行動調査とその解析Ⅱ

— ニホンザルの配偶関係を調べる —

本誌1992年7月号に発表しましたニホンザルの配偶関係調査を今年も継続して行いました。同じテーマを継続して調べることは、個体間の年次変化を比較したり、群れの動態を知ることができて興味をわきます。それでは1992年～1993年の交尾期(10月～2月)のまとめに入る前に1992年の出産結果をまず紹介しておきましょう。全部で10頭出産しました。“トマト”(チャップ♂)“コーチ”(クドウ♂)“ハンニャ”(タクミ♂)“モチッコ”(オカキ♀)は2年連続の出産でした。前年初産で育児に成功しなかったモチッコは、今回は落ちついて上手に育てていましたが、“オカキ”の指先に母親の毛がからみつき壊死したため、採食に支障をきたすようになり死亡してしまいました。又、初産の“モロミ”(クラダシ♀)も授乳がうまくいかなかったのか、4日目の太陽をみることはできませんでした。ところが、期待していなかった同じく初産となる“タバスコ”は、この年最後の7月30日に“クレナイ”♂を出産しました。私の心配に反して母親をつとめました。

簡単にまとめますと、例の10頭出産中4頭が死亡(死産1を含む)し、その性比はオス8頭、メス2頭でした。残った6頭は全てオスということになりました。配偶関係を認められた19頭の雌の内約半数が出産しました。最もコンソート関係の多かった“ゲダラ”は出産していませんでした。妊娠しなかったからいつまでもコンソート関係が続いたといえるでしょう。

1992年出産記録

月日	母親	子供
4月20日	モクモク	キンキン♂ 4月28日死亡
5月14日	ツチャマ	カブラ♂
5月16日	エチゼン	イマジョウ♂
5月27日	モチッコ	オカキ♀ 8月25日死亡
5月27日	トマト	チャップ♂
6月5日	コーチ	クドウ♂
6月19日	モロミ	クラダシ♀
7月10日	オセン	死産♂
7月18日	ハンニャ	タクミ♂
7月30日	タバスコ	クレナイ♂

私たち飼育係は動物と共にいるのですが、けっして観察時間が十分にあるわけではありません。観察時間をとれない日もありました。そのため、多くは完全な交尾の確認まで観察していま

せんが、幸いニホンザルの交尾様式にコンソート＝相方の追随による持続的な交尾関係がありますので(他に乱交的交尾、独占排他的交尾)、朝一番にまずどの個体と個体がコンソート関係にあるかを確認しておけば、後は不定期であってもかなりのデータを得ることは可能になります。

今回初めてコンソート行動を確認したのは9月30日です。やはりアルファオスの“モミジ”でしたが、前年より20日以上遅れています。単に日にちのおくれだけなら、あるいは気候条件などが影響したのではないかと考えられるのですが、どうも“モミジ”の迫力が少し落ちているような印象を受けました。2番目に観察したのは“ライス”です。前年は全くデータがなかった個体です。以降回数は少ないものの、“ライス”の他、“ソーメン”、“ミズキ”が新たにコンソートがみられています。しかし、この3頭と“ベロベロ”がおそらく“モミジ”によるものと推察できる攻撃で何回か負傷しています。今回はこれらのことが“モミジ”のコンソートに影響を少なからず与えたようです。そこで気にかかるのは“リング”のことで。前年同様精力的なコンソートを観察しています。多少は“モミジ”の目を気にしているようでしたが、もう彼からの攻撃を受けることはありません。むしろ攻撃は相手方のメスにむけられるようでした。それでも面白いことに“リング”もけっして“モミジ”に対立するような位置を求めているようではなく、適当にグルーミングをしたりしていい関係を保つ努力をしているようにみえました。もう、“モミジ”は“リング”の行動をある程度黙認しているといえます。さて、この2頭の関係や今回台頭してきたオス達との関係が来期には変化が見られるのか非常に楽しみです。たしかに“モミジ”はかつて

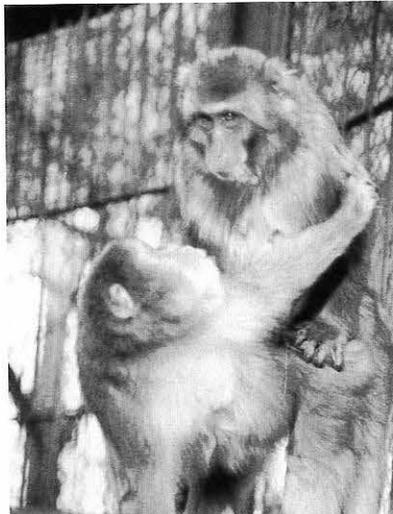
メス間の同性愛観察日数

個体数	イチゴ	オミツ	モロミ	ミヤヤマ	エチゼン	オハギ	バリッコ	ゲダラ	ツチャマ	ハンニャ	モチッコ	コーチ
イチゴ							1	2				
オミツ					2	7		1	15			1
モロミ					5	3					2	6
ミヤヤマ					1							
エチゼン					2	1						
オハギ	1				3							
バリッコ	2											
ゲダラ		1										
ツチャマ		15										
ハンニャ					2							
モチッコ						6						
コーチ												1

の孤高なサルという印象は少しくすれてきました。ところが、“リング”にいたっては交尾期が終了してしまうとあいかわらずガキ大将的存在で、彼の周りには子ザルがいつも数頭とりまわっています。オトナメスに頼りにされている“モミジ”とは大きな違いです。そして今回目立ったのは、メス同士の小さな闘争です。欲求不満によるものでしょうか。次に紹介する同性愛行動を含めて考えてみる必要があります。

今回初めて観察したことにメス同士の同性愛行動があります。霊長類の同性愛行為はゴリラのオス、アカゲザルの両性、リスザルのメス等で認められています。ニホンザルのメスでもけっしてまれなものではありません。交尾期には約半数が関わるといふ報告もあります。

今回10月20日に“オミツ”が“コーチ”にマウントしているのが観察されました。ただのマウントだけなら気がつかなかったかも知れませんが、それにいたる行動が全くオス、メス間のコンソートと同じでしたので間違いありません。原因としては配偶



メス間の同性愛行動
マウントするオミツ、下はツチャマ

ツ”です。どちらかが一方的になることはないと言われていますが、私が観察した多くは“オミツ”がオス役をはたした行為です。

尚、この行動が認められた個体もオスとの正常なコンソートがあり、“オミツ”も今年りっぱに出産しています。

前回に少し紹介しました“ポット”は今回も非常に特徴的な行動がありました。陰部の腫脹がみられたのですが、オトナオスはほとんど相手にしてくれませんが、前回しぶしぶお相手をしてくれた“ツーポイント”ももう出園して彼女の前にはいません。そこで“ポット”が選択したのは“ツーポイント”よりさらに幼い“カブキ”でした。おそらく“ポット”が一方的にコンソート関係をせまったと思います。逆独占排他的交尾とでもい

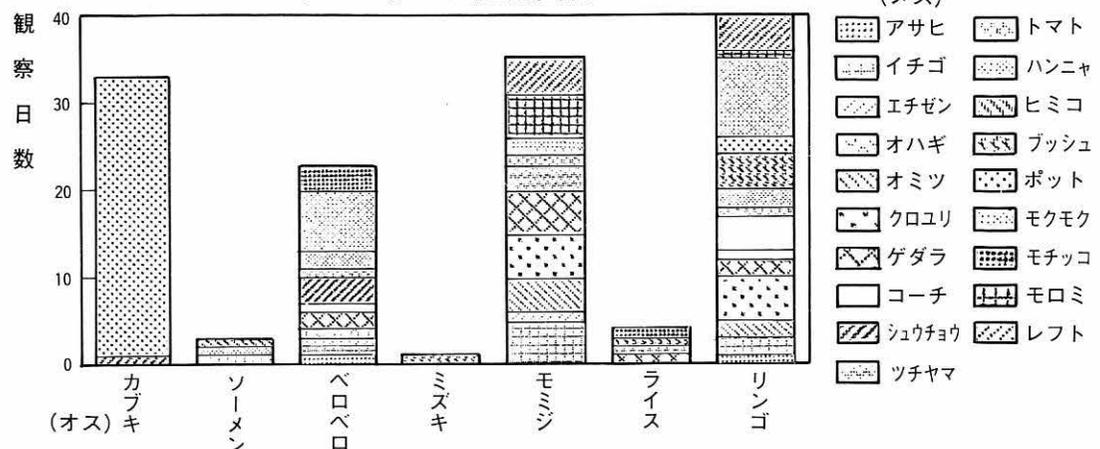


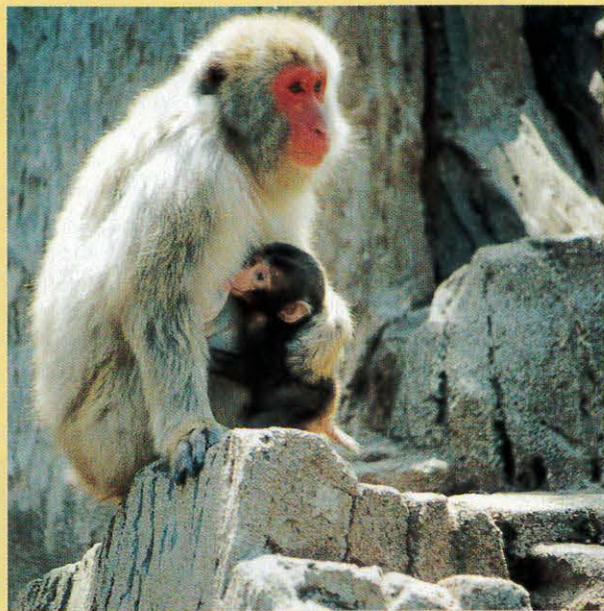
まだ幼いカブキ(オス)、後方はポット(メス)

えるのでしょうか。“ツーポイント”との時と大きな違いはその関係が長期に渡ったことです。常に2頭が抱きあって、時には“カブキ”のマウントも観察しました。(12月中旬～2月末までほぼ毎日)この関係も交尾期が終了するとともに解消され、“カブキ”も同年齢の若者と遊ぶ日々をすごしています。さて、次期この“ポット”に選ばれるのはだれになるのでしょうか。この時、彼女は赤ちゃんを生める十分に成熟した魅力的な女性になっているのでしょうか。

(飼育課：大野尊信、早川 篤)

オスからみた配偶関係





ニホンザル

4月16日を皮切りに、6月9日現在14頭の赤ちゃんが生まれ、サル島は大にぎわいです。平成3年の12頭を上まわる過去最高の出産数です。



ンチョウ
ツルのヒナの成長はずいぶん早く、このヒナもとても大きくなりました。今年は他のつがいにもう2羽のヒナがふ化しています。



ニホンジカ

4頭の赤ちゃんが元気に母親の後をついて走りまわっています。鹿子模様のかわいい赤ちゃんはいつも人気ものです。

グランドZOO

今年も赤ちゃんがいっぱい

春は動物たちの出産シーズン、今年も赤ちゃんがたくさん生まれていますので、その一部を紹介しましょう。

(撮影：土谷正道)



バーバリシープ

バーバリシープの赤ちゃんは元気者。生まれてすぐに立ち上り、岩山を登ることができます。今年10頭の赤ちゃんが生まれています。



マーラ

天王寺動物園でマーラの赤ちゃんが生まれたのは初めてのことです。2頭の母親から合計3頭生まれ、元気に育っています。



ヤギ、トカラヤギ

4月9日生まれのヤギと4月8日、10日生まれのトカラヤギの赤ちゃんは人工哺育でいっしょに育ちました。

ケちゃんの女子動物園 まんが松葉 健

《動物と花のフェスティバル》4月25～5月5日

ゴールデンウーヴの動物園は、たのしい催しがいっぱいでした

雨で中止になったのもありましたが、ボウが見たものを紹介いたします

レクチャールームでは親子でぬりえや、スーパーボールのすくいとり大会、パネルクイズなどで遊んでいました。そこへアヒルのぬいぐるみが現われて、子どもたちと記念写真を撮っていました。



5月1日 セキショクヤケイのヒナが6羽、母親の抱卵によりかえりました。前日ふ化した1羽を加えると計7羽になりました。このペアは昨年11月に来園したものです。ふ化日数は、20日から21日でした。



- 5/2. “鳥の楽園” (バードケージ) では、カモの仲間がどんどん産卵しています。
- 5/4. シュバシコウのヒナが4羽かえりました。これが今年初めての繁殖です。
- 5/5. マーラの赤ちゃんが2頭生まれました。
- 5/6. 4月4日産卵のタンチョウの卵がふ化しました。その後も親は、4月7日に産卵したもう1つの卵を抱き続けています。

5月7日 ジャガーの母子を一般公開しました。



ニホンコウノトリが卵を産みました。当園初の出来事です。

5月8日 6日に引続き、残りのタンチョウの卵が無事ふ化しました。オス親は当園生



まれの11歳、メス親は、京都市動物園生まれの12歳で、同園から繁殖のためにお借りしています。今回で連続6回目の繁殖になります。

- 5/9. 今年7頭目のニホンザルが生まれました。
- 5/10. チョウゲンボウを1羽保護しました。

今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY

5月16日 カニクイザルの“モモコ”が赤ちゃんを生まれました。



- 5/18. レッサーパンダ3頭にワクチンを接種し、爪切りも行いました。
- 5/20. “鳥の楽園” (バードケージ) でカナダガンが2羽孵化しました。残念ながら孵化後まもなく1羽のヒナが死亡しましたが、残り1羽は親の後について元気に歩き回っています。
- 5/23. ペンギン3種 (オオサマ、イワトビ、マカロニ) 19羽を冷房ペンギン舎へ移し、同時に体重測定と爪切りも行いました。

5月25日 上海市との第9次動物交流として、



上海動物園からウンピョウ1つがいが増らてきました。上海動物園から4名の動物輸送の方々をお迎えし、ヤマネコ舎前で贈呈式を開催しました。

- 5/30. プタオザルの赤ちゃんが1頭生まれました。

☆テレホンサービス：771-9999

☆お知らせ

- 動物の愛護標語募集
期間：7月1日(木)～7月31日(土)
- 第19回サマースクール
期間：7月21日(水)～7月26日(月)
- ホッキョクグマに氷柱プレゼント 7月23日(火)
- 動物園のおじさんのお話
日時：7月18日(日)午後1時～
場所：レクチャールーム

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価600円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間は？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしか いかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしか いかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。

☆ 光のくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HIG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
(ギャレ大阪) ☎346-7606

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

<研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載>

会費/年1,500円(切手72円・呈既刊号目次)

動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー

500円



園内売店にあります。

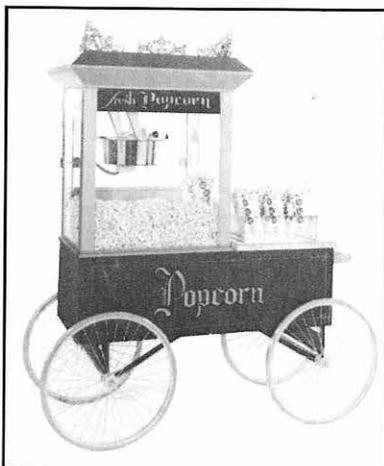
大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

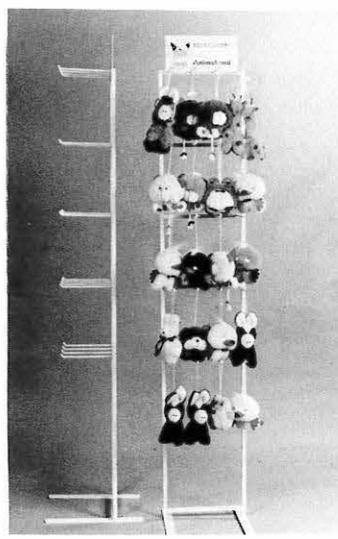
マスタのポップコーン



<営業品目> 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165



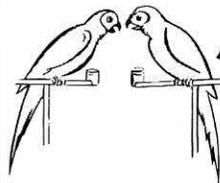


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

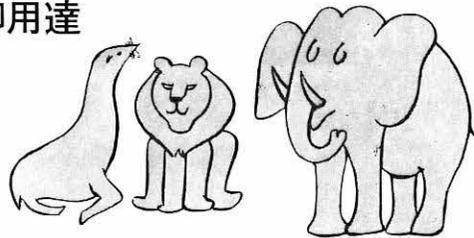
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06)704-8580
FAX: (06)704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、 ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲もの・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL06-771-7110



園内での写真は... 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



Our yogurt has fruity
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と
覚えてね。



いほりたてミルクのおいさが、生きている。

雪印
オガール

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HIJIRI-KOJIMA

一日
愉快地
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1993年7月10日発行(毎月10日発行)第29巻 第7号(通巻335号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/中尾啓一/樽本 勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭)
森本委利/竹田正人/永田健一/前田 茂/大野尊信/野口秀高/早川 篤/堀内智生/大川光雄/土谷正道/山元貞幸)